

地域住民と商店街を核とした 認知症バリアフリーのまちづくり

名古屋市中区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会
【事務局】

名古屋市中区いきいき支援センター(地域包括支援センター)
センター長 水上 賢治

中区(名古屋市)の基礎情報及び特徴

面積 9.38km²(326.45km²) 中学校区 4校(111校)

地域包括支援センター数 1か所(29か所)

認知症地域支援推進員 1名(29名)

人口 91,492人(2,320,719人)

65歳以上人口 18,157人(575,747人)

高齢化率 **20.7%**(25.2%)※年齢不詳者を分母から除く ※全市で最も低い

独居高齢者割合 **23.9%**(18.7%)※全市で最も高い

世帯人数 1.5人(2.1人)

昼夜間人口比率 **364.0%**(112.8%)

(出典)市公式HP「名古屋市の人口」、「高齢者関係基礎データ」、学区別生活環境指標等

認知症にやさしいまち大須プロジェクトについて

中区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会部会長

渡辺正樹先生（神経内科渡辺クリニック院長）

⇒認知症の人は歩きなさい！

⇒誰もが知っている「大須」を認知症の人が
安心して外出できるエリアに！

認知症施策推進大綱でも認知症バリアフリーの推進が明記

『認知症の人の多くが、認知症になることで、買い物や移動、趣味活動など地域の様々な場面で、外出や交流の機会を減らしている実態がある。このため、移動、消費、金融手続き、公共施設など、生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」の取組を推進する。』※認知症施策推進大綱より抜粋



認知症にやさしいまち大須プロジェクトについて

大須商店街・大須学区を認知症支援にかかる普及啓発および風土形成のシンボルタウンとし、平成30年度から関連事業を重点的に実施
(平成29年度 中区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会で決定)

【大須においてエリア特化型事業を企画した主な理由】

- 地域住民のつながりが強く、まちぐるみの取り組みが可能
- 市内有数の観光地として、強い情報発信力をもつ大須地区を中心に認知症に関する普及啓発事業を行うことで、効果的な情報発信ができる。
- 大須観音など歴史や文化が根付き、高齢者をはじめ多くの人を訪れる大須商店街で、新たに認知症を通じた福祉の試みを行うことで、「にぎわいと活気」に加え「福祉のやさしさ」もある大須商店街として、さらなるイメージアップを期待

認知症にやさしいまち大須プロジェクトの取り組み



平成30年5月18日にオープニングセレモニーを商店街連盟、学区関係者、行政も参加し開催しました。当日は中区の広報大使で地元アイドルグループの「OS☆U」も参加しました。

大須エリアでは、「OS☆U」も参加する認知症サポーター養成講座を実施し、一般市民の他、大須商店街店舗も参加し認知症サポーター協力店として登録していただいています。

認知症にやさしいまち大須プロジェクトの取り組み



大須商店街では認知症サポーター協力店も参加する「おかえり支援事業模擬訓練」や認知症に関する講演会を毎年開催しています。
コロナ禍で2年連続中止になっていましたが、令和元年9月には世界アルツハイマーデーに併せて認知症当事者や認知症サポーターが参加するRUN伴も開催しました。

認知症にやさしいまち大須プロジェクトの取り組み



令和2年度には「認知症にやさしいまち大須ツアー」を企画、事前に作業療法科の学生と環境デザイン調査を大須商店街で実施。調査後、学生と認知症当事者が参加する街歩きツアーを開催しました。令和3年度には、若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」との街歩きツアーを開催しました。

認知症にやさしいまち大須プロジェクトの取り組み



大須エリアでは、小学校での認知症サポーター養成講座や学区で児童やその保護者が参加するイベントで認知症の理解を深める取り組みを定期的に行っています。

また、大須商店街は、若い世代も訪れる機会が多いことから専門学校と連携し、大須商店街で買い物をしている専門学校生が認知症当事者に声をかけられ、助けを求められる訓練も今年度実施しました。

認知症にやさしいまち大須プロジェクトの取り組み



大須商店街の様子です。認知症サポーター養成講座を受講し、サポーター協力店として登録していただいているお店にはステッカー(又は卓上のぼり)を店頭に掲示していただいています。

ITを活用した認知症バリアフリーの推進

令和2年度にプロジェクトの一環で、認知症当事者に外出時に困ることや心配なことのヒヤリングを実施。その一つが“**トイレ**”であることが分かりました。その声を受け開発した『**まちぶらオレンジマップ**』は、スマートフォンを活用し、どなたでも利用することができるバリアフリー対応のトイレや、認知症の人や要介護者の家族をサポートする事業者等の情報をGoogleマップに表示するウェブサイトです。バリアフリー対応のトイレは、東京都町田市の介護保険事業者の取り組みである「Dトイレ(だれでもトイレ)」を参考にしました。

スマートフォンを手に街歩きを楽しもう 
認知症の人や要介護者も
まちぶらオレンジマップにアクセス
nagoya-orangemap.com

「まちぶらオレンジマップ」は、認知症の人や要介護者が介護者と一緒に気軽に外出できるよう、スマートフォンを活用し、どなたでも利用できるバリアフリー対応のトイレや認知症の人や要介護者のご家族をサポートする事業者等の情報をGoogleマップ(スマートフォンで見ることができる地図)に表示するウェブサイトです。

認知症の人の外出をサポートする事業者情報を地図上にオレンジリングで表示

提供するサービスは5種類



認知症や要介護になることで、買い物や移動、趣味活動など様々な場面で、外出や交流の機会を減らしていく傾向にあります。名古屋市中区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会では、生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくため「**認知症バリアフリー**」の取組を推進しています。

名古屋市中区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会

ITを活用した認知症バリアフリーの推進

『まちぶらオレンジマップ』は、GoogleMapに認知症の人の外出をサポートするサービス提供事業者の位置情報を地図上にオレンジリングのアイコンで表示。開発は中区内の就労継続支援A型事業所が制作。
令和3年1月からサービス開始



『まちぶらオレンジマップ』の機能



地図上に現在地とその周辺に登録されている事業者の位置情報がオレンジリングで表示されます。

オレンジリングをタップすると事業者の詳細情報を表示

※ナビ機能はありません。移動時は現在地ボタンをタップし、現在地を確認してください。



各事業者の詳細情報には、

- ・事業者名
- ・事業者紹介写真
- ・提供サービス
- ・バリアフリー設備情報
- ・事業者説明
- ・利用可能時間
- ・ホームページ案内
- ・電話番号 を掲載

※電話番号とホームページ案内はリンクが貼ってあります。

まちぶらオレンジマップの運営状況

サービス登録状況 ※重複登録有

Dトイレ	サポーター 協力店	認知症カフェ	おかえり支援 事業協力事業者	高齢者いきいき 相談室
73	62	5	24	5

登録事業者内訳(129事業所)

介護保険事業者	行政機関 公共施設	医療機関	店舗・売店	金融機関
13	42	2	29	26
企業・事業所	飲食店 レストラン	劇場・映画館	学校・専門学校	ホテル
12	3	1	1	0

アクセス数 延2,627件 【参考】大須エリアでの登録事業者数 36事業所



協力していただける
事業者様には、
認知症サポーター協
力店のステッカーや
立て札、Dトイレのス
テッカーを掲示してい
ただいています

今後の展開について



「認知症にやさしいまち大須プロジェクト」は、学区関係者、商店街関係者、地域住民、地元企業、行政に認知症当事者が参加するワーキンググループを今年度設置し、事業の企画立案や評価を行っています。

また、『まちぶらオレンジマップ』は、今後も認知症当事者と事業者を繋ぐ役割が担えるよう、モニタリングを繰り返して機能向上を図るとともに登録事業者の増加に取り組みます。

ご清聴ありがとうございました